

～子宮頸がん予防ワクチンには

「サーバリックス」と「ガーダシル」の2種類あります～

子宮頸がんは、子宮頸部(子宮の入り口)にできるがんで、20～30代で発症が急増し、日本では年間約15,000人の女性が発症していると報告されています。発がん性HPVというウイルスの感染が原因で引き起こされる病気で、感染しても多くの場合、感染は一時的で、ウイルスは自然に排除されますが、感染した状態が長い間続くと、子宮頸がんを発症することがあります。発がん性HPVには15種類ほどのタイプがあり、その中でもHPV16型、18型は子宮頸がんから多くみつかるといわれるタイプです。

いずれのワクチンも子宮頸がん予防に対応するためのヒトパピローマウイルス(HPV)の2つ(16、18)の型が入っていますが、「ガーダシル」には主に尖圭コンジローマ(性器や肛門にできる小さな良性のイボ)を予防するための2つ(6、11)の型も入っています。2つのワクチンの効果を直接比較した公式なデータはありません。医師と相談の上接種できるほうのワクチンを接種してください。2つのワクチンは1回目から2回目の接種間隔が異なりますので、ご注意ください。

商品名	サーバリックス	ガーダシル
接種回数	3回	
接種間隔	1回目から1か月後に2回目 1回目から6か月後に3回目	1回目から2か月後に2回目 1回目から6か月後に3回目
接種方法	1回に0.5mlを筋肉注射	
対応するHPV	HPV16、18型	HPV6、11、16、18型
予防効果	子宮頸がん	子宮頸がん 尖圭コンジローマ
日本販売開始時期	平成21年12月	平成23年8月
副反応 ※ いずれのワクチンも注射部位の痛み・赤み・腫れが主な副反応です。 ※ <u>接種直後に失神があらわれることがありますので、接種後30分程度は座って様子をみてください。</u>	<p><u>頻度10%以上:</u> 注射部分の痛み(99.0%)・赤み(88.2%)・腫れ(78.8%) 胃腸症状(吐き気、嘔吐、下痢、腹痛など)(24.7%) 筋肉の痛み(45.3%)、関節の痛み(20.3%)、頭痛(37.9%)、疲労(57.7%)</p> <p><u>頻度1～10%未満:</u> 発疹、じんましん、注射部分のしこり、めまい、発熱、上気道感染</p> <p><u>頻度0.1～1%未満:</u> 注射部分のピリピリ感／ムズムズ感</p>	<p><u>頻度10%以上:</u> 注射部位の痛み(85.2%)・赤み(32.0%)・腫れ(28.3%)</p> <p><u>頻度1～10%未満:</u> 発熱・注射部位のかゆみ・出血・不快感、頭痛</p> <p><u>頻度1%未満:</u> 注射部位のしこり、手足の痛み、筋肉が硬くなる、下痢、腹痛、白血球数増加</p>